

藝文やまなし

題字 金井 昭堂 (芸術文化協会参与)



平成23年3月号

Vol.24

CONTENTS

- ◆会長随想…………… 2
- ◆国文祭に向け力を結集
— 第10回県民文化祭 — …… 3
- ◆各受賞者の紹介…………… 4 ~ 5
- ◆特集「山梨芸術劇場雑感」…………… 6
- ◆第28回国民文化祭・やまなし2013の紹介…………… 7
- ◆総会・研修会のお知らせ…………… 8
- ◆いんふおめーしょん…………… 8

「母なる山・富士を守る」

山梨県芸術文化協会会長 野口 英一



日本の象徴、富士山。頂から美しいカーブを描く稜線、地平に向かって大きく広がるすそ野。その類まれな容姿に、芸術文化にかかわる者ならば誰もが一度は創作意欲を刺激されたことでしょう。美術、文学、写真、音楽…あらゆる分野で富士山から着想を得た作品を見ることができます。創作の源であり、「母なる山」と呼ぶ人もいます。そんな霊峰の環境美化・保全活動を半世紀にわたって続けている団体、それが「富士山をきれいにする会」です。

同会は1962（昭和37）年4月30日、山梨県、県観光連盟、山梨日日新聞社、山梨放送などの提唱で結成されました。東京オリンピックを2年後に控え、「富士山をきれいにして世界の人々を迎え入れよう」という関係者の思いが出発点でした。

「心ない登山者が捨てたあきカンや紙くずをお山から一掃しよう」。発足時の様子を伝える山梨日日新聞の記事は、こんな書き出しから始まっています。設立総会では美化運動を毎年続けていくこと、参加を全国に呼び掛けることなどを確認、「これを機会に長い間散らかし放題のお山も、ようやくむかしの“霊峰”の姿をとりもどせるものと、各方面からこの運動の成果が期待されている」とあります。関係者の熱意を感じる一方、“ごみの山”と呼ばれていた状況への危機感の強さがうかがえます。

登山道を中心にごみ拾いを行う富士山クリーン作戦は今夏、50回目の節目を迎えます。「127万2886人」「4854トン」。これまでの総参加者数と収集したごみの総量です。半世紀にわたって積み重ねられた数字に、活動の歴史の重さを感じずにはられません。本当に大勢の皆さんから、ご協力をいただいています。理事長として感謝の念に堪えません。

「富士山をきれいにする会」の発足当時、道路や公園などの公共の場にごみが目立ち、町をきれいにしようという運動が活発でした。ごみ箱、たばこの吸い殻入れを町や駅に寄付する行為が美談として取り上げられていた中、同会は行動することを旗印に掲げました。富士山に自らの足で登り、自らの手でごみを拾う。そんな参加者の真摯な姿が多くの人々の共感呼び、回を重ねるごとに活動の輪が広がっていったのです。クリーン作戦は「拾う」だけでなく、登山者の「捨てない」意識も喚起しました。事実、拾い集められるごみの量は減少傾向にあります。「継続は力なり」です。

その活動の規模と歴史から、「富士山をきれいにする会」は、わが国の環境美化運動のパイオニアに位置付けられています。クリーン作戦50回は、ひとつの通過点です。登山のように「登頂」というゴールはありません。これからも一歩ずつ、確かな歩みを続けていきたいと思えます。美しい富士山を守る。その思いと行動が、「母なる山」を擁する日本の文化振興にもつながっていると信じて。



富士山クリーン作戦

国文祭に向け力を結集—第10回県民文化祭—

総合舞台

3月6日(日) 県民文化ホール大ホールにおいて開催された本年度の「総合舞台」はハイル ベートーヴェン「人間讃歌」と題して作曲家ベートーヴェンの生涯を描いた作品が公演されました。音楽家として将来を期待されたベートーヴェンは、やがて耳が聞こえなくなり落胆の末、死を決心。しかし友人ヴェーゲラーにより一点の可能性を信じて死を思いとどまり大作曲家として新たな道を歩み始めます。音楽家としてのベートーヴェンは偉大な人物であると同時に、人間的に常に寂しい境遇の人生を歩みながら時代とともに生きてきました。そんな彼の苦悩や悲しみ、そして幸福を飲み込んで歌い上げる「交響曲第九番」歓喜の歌。終幕の大合唱は圧倒的な迫力で会場を包み、全ての方々に大きな感動を与えてくれました。

公演は舞台部会の各部門がジャンルの枠を超えて力を結集し、音楽や演劇を交えて素晴らしい舞台を作り上げることができました。各部門のスタッフは準備等厳しい日程にもかかわらず、それぞれの力を遺憾なく発揮し、会場からの惜しみない拍手に笑顔で応えていました。



総合展示・合同展示

「総合展示」は10月13日(水)から17日(日) 県民文化ホール会議室及び展示ロビーにおいて「美の祭典～国民文化祭へのみちⅡ～」と題して展示部会各部門が参加しました。県内の指導的立場にある方々の作品93点を一堂に会して開催されました。また、土曜の午後と日曜の午前には恒例となりました茶道部門による呈茶と邦楽部門による箏の演奏も行われ、訪れた方々に優れた芸術文化の鑑賞とあわせて心地よい時間を提供することができました。

さらに、2月23日(水)から27日(日)まで同会場にて開催された「合同展示」でも展示部会が中心となって運営を行い、県民文化祭の入賞作品を始め、県内の代表的展覧会の優秀作品や姉妹州県からの応募写真などを展示し優れた芸術文化に触れていただきました。また、最終日には吟剣詩舞部門の参加促進事業も実施され、会場を訪れた多くの方々に迫力ある剣舞や吟詠を鑑賞していただきました。



部門別フェスティバル

芸文協の各部門が主体となって行われる「部門別フェスティバル」は8月の合唱フェスティバルを皮切りに、発表・展示・舞台の各部門が特色ある事業を展開し、県民文化祭を盛り上げてきました。



各受賞者の紹介

平成 22 年度に山梨県芸術文化協会の関係者で「県政功績者表彰」「山梨県文化賞 文化功労者賞」「山梨県文化賞 奨励賞」を受賞された方々を喜びの声とともにここにご紹介いたします。

県政功績者表彰

山梨県県政功績者表彰受賞感想

依田 道彦

今年度の山梨県県政功績者表彰を幸運にも受賞出来ましたことは、大きな喜びであると同時に、昨年度の上年度山梨県文化賞功労者賞受賞と重なり誠に恐縮しております。甘んじて受賞しながら申しあげ難いことですが、より相応しい方々が大勢いらっしゃる筈ですので、今後は重複受賞を避け、県民に広く与えられることを望みます。

この荣誉ある受賞は決して私達個人の業績によるものではなく、諸先輩方の業績の上に積み重ねられてきたことによるものであり、また、協力し合ってきた仲間達との共同活動で与えられたものであることと理解しております。

諸先輩方から私達に伝授されてきたことを、これからは若い世代に引き継いでゆくべき使命を強く感じております。そのような決意で今後も頑張りたいと願っておりますので、御支援の程を宜しくお願い申し上げます。



山梨県文化賞 文化功労者賞

県文化功労者賞を受賞して

早川二三郎

この度は、荣誉ある山梨県文化功労者賞を賜わり、ほんとうに嬉しく思っています。

油絵をかき、山梨美術協会と共に歩んで参りました。創造活動の発表の場が欲しくて、県立美術館建設の運動を展開し、その願いが達成され、素晴らしい美術館が誕生した時の喜びが、つい昨日のことのように思えます。

県内の芸術文化は、その時点から飛躍的に向上し、県芸術祭、その後の県民文化祭の諸展も、充実した格調高いものとなりました。

私も山美協での諸役とあわせて県美術専門委員会の中でも活動させていただき、既に半世紀になろうとしています。そして、少しはお役に立てたのではないかと考えています。

近々、国民文化祭が開催されますが、県芸術文化向上の絶好の機会と捕え、頑張りたいと思っています。



山梨県文化賞 奨励賞

奨励賞を頂いて

安藤 峯子

多くの方との出会い、励ましがあり、今日の私があると感謝致しております。私にとりまして、とても大きな活力となりましたのは、日本画壇の重鎮でいらした、故高山辰雄先生、加倉井和夫先生の門下の一員とさせていただき絵画のみならず、美術家としての様々な知識を学ばせていただきましたことはとても幸せなことでした。今後は私の教室で絵画を勉強する子供達、絵画を愛好する方々と私が受け継いだ先生方の、尊い教えを引き継いで研鑽して参りたいと思っております。そして微力ながら、山梨の文化発展の為に努力したいと考えております。



山梨県文化賞 奨励賞

山梨県文化賞奨励賞を頂いて

窪澤 豊（雲龍）

この度の受賞は身に余る光栄と心から感謝しております。これも偏に山梨県書道会の諸先生方の暖かいご協力によるものと深く感謝申し上げます。

書の姿を求め五十年余りになりますが、これからの世界に通ずる書をとる思い少数部門に専念してまいりました。

中央書壇においては毎日書道会審査会員、東京書道会評議委員を務めさせて頂いております。

県内では県書道会常任理事、徽墨会副会長、やまなし県民文化祭専門委員を務めさせて頂いております。

これからもさらに県民の一人として、先輩諸賢の後に続いて今後も自己研鑽を怠らず、後進の指導にも微力ではありますが、尽力してゆく所存でございます。

今後の芸術文化は、県民誰もが親しめる「大衆性」が取り上げられると思います。



山梨県文化賞 奨励賞

奨励賞を頂いて

この度、図らずもこのような大賞を頂くこととなり、今までこういったことに無縁であったことで、大変戸惑っています。ただ好きという一点のみで、大勢の仲間と楽しくという事のみ心がけてきた、趣味の世界にあります。

趣味とは申してもそれが仕事にも良い影響を為し、仕事が趣味をも活かすこともあります。

私も既に人生半分以上が経過しました。これからのことは今までと大きくは変わらないものと思いますが、頂戴した賞は、仕事仲間や音楽仲間の代表として頂いたものと理解し、趣味とは雖も、更に深く研鑽を怠らないことで、より深いものを目指していこうという、ある意味新たな出発と意義付けます。誠に为您推荐ありがとうございました。

内藤 睦雄



山梨県文化賞 奨励賞

奨励賞を頂いて

1966年他県より嫁いで山梨に移り住み、箏音楽活動を45年続けてきました。私の活動の中心は、数多くの公演での創作曲の発表や作品集の楽譜、CDの出版等。県関連の活動としては、芸術劇場、派遣事業、国民文化祭参加、部活動の指導等です。昨年の総合舞台「かぐや姫」では邦楽部門の初の試みとして公募による大合奏の指導を仰せ付かり、43名一丸となり猛練習に励み、作曲、指揮者よりお誉めの言葉を頂き大きな感動と音楽の持つ真の力を実感しました。此の度の受賞は演奏者皆様のお力添えの賜であると深く感謝致しております。

雨宮 洋子



山梨県文化賞 奨励賞

受賞への感慨

民謡民舞部門第三代部門長として就任した際、フェスティバルの公演時間を3時間以内に短縮し、また民謡民舞部門のあるべき姿として唄と踊りの共演を主体としたい等、色々の提案をさせて頂き部門全員の皆様のご協力により実現出来ました事が強く印象に残っております。この度は荣誉ある文化奨励賞を賜りました事はひとえにご支援下さいました民謡民舞部門の皆様の御蔭と心より感謝致しております。現在は武田節の原譜発見に伴い、その普及活動に努めておりますが、30名近い幼少年に唄や銭太鼓の指導をしている時が一番幸せを感じるひと時です。スポンジの様な吸収力と柔らかい子供達の頭脳に伝承文化の種を播き、笑顔からパワーをもらい乍ら芸文協の明るい未来を夢みております。

これからも尚一層の努力をし、この賞にお報いしたいと思っております。

萩田 久子



山梨県文化賞 奨励賞

感謝の言葉

この度、茶道文化の普及、地域文化の発展に貢献したとして、このように晴れがましい表彰式をお挙げくださり、誠に身にあまる光栄に存じております。

知事様はじめ、ご来賓の方々から分には過ぎるお言葉を頂き、身のおきどころもない思いでございます。自分のできることを、できる範囲にやっただけでありますのに、この光栄は終生忘れることができません。

このうちは、更に決意をあらたにし、微力非才ながら、身につけた体験を生かして、いささかなりともご恩報じをいたしたいと存じます。どうぞ、今後ともご指導、ご支援賜りますようお願い申し上げます。

ありがとうございました。

荻野 巖 (仙巖)



山梨県文化賞 奨励賞

山梨県文化賞奨励賞を受賞して

巻く、編む、組む、の工程を組み合せながら、平面と立体を同時に作り上げていくことのできるかご作り、籐工芸に魅せられて、早いもので30年の月日が流れました。東京の師の工房に全国から仲間が集い、一日中籐を動かしながら、一つでも多くの技術を取得しようと懸命に過ごした日々が、懐かしく思い出されます。その間、まるで縦糸と横糸の様に私を支えてくれた大勢の皆様方のおかげでここまで歩んで来る事が出来ました。

今後は、感謝の気持ちを忘れず、益々精進を重ね「暮しに役立つ籐工芸」の普及に力を尽し、又、ハンドクラフトの様々なジャンルの方々と交流を持ちながら、山梨県の芸術文化の発展の一翼を担う事が出来ればと願っています。

保坂 初美



特集「山梨芸術劇場雑感」

今年度も山梨芸術劇場は7箇所の学校で実施され、各回とも大きな成果を納めて参りました。また、今回の芸術劇場では山梨県立ろう学校において芸術劇場としては初めて洋舞公演が、若尾バレエ学園の皆様のご活躍により実施されました。主催団体（学校等）も、公演団体も実施することによって、それぞれ別の角度から様々な思いが生まれたことと思います。そこで今回はそれぞれの立場からその思いを語っていただきます。今後も皆様のお力をお借りして、価値ある芸術劇場にしていきたいと思っております。

子供たちの光る目に感動を覚えた山梨芸術劇場

若尾バレエ学園 成澤千賀子



私共にとっては、聴覚に障害のある県立ろう学校の生徒の皆さんにバレエを観ていただくことは未知の世界でしたが、できるだけ普通の舞台と同じものを、そしてストーリー性のあるものに演目を絞りプログラムを構成いたしました。また、バレエを全く観たことのない子供たちにバレエの歴史・マイム・基礎レッスンなどのレクチャーを企画に加え、当日の公演を迎えました。

そこで私の目に入ってきた子供たちの姿は、想像を遙かに超えた「やる気と集中力」でした。幼稚園から高校生までの年齢差のある子供たちが、私の、そしてダンサーの一举一動に真剣に瞳を輝かせ、分からないことへの好奇心も旺盛。全てが私達を驚かせてくれました。

一方、指導者派遣事業ではかえり支援学校へ出向いて生徒の皆さんと一緒に体を動かしましたが、ここでも私の想像を遙かに超える生徒たちの「落ち着きと前向きな姿勢」に、感心ではなく感動いたしました。

両事業で痛切に感じたことは「文化・芸術は感じるものである」こと。こんなことは当然の知識として分かり切ったことでしたが、両校の生徒たちと「感じあう」ことを共感出来た瞬間に喜びが込み上げ、胸と目頭の熱くなったことが今も色あせることなく心を過ぎります。「あー！ バレエを教えていて良かった!!」と痛切に感じました。

生徒の皆さんにとって芸術劇場や指導者派遣事業は素晴らしい体験のできるプログラムであると思いますが、さらに素晴らしいのはプロの先生方に見守られながら日々を送っていることにあると実感いたしました。先生方の子供たちに対する温かいサポートが、障害のある子供たちに「落ち着きとやる気」を出させているのではないかと思います。このことは是非多くの方々を知ってほしいことです。

文化を育てることは個の力だけでは難しくとも、私たち文化・芸術に携わる者、教育現場で実際に子供に関わる人、そして行政や団体が力を合わせて、頭で考えるだけでなく、心でも感ずることの出来るように未来ある子供たちを育てること。

文化・芸術の存在意義を改めて痛感したこの事業が、1団体だけの事業ということではなく、未来ある子供たちを育てていくという大きな懐を持ち、教育に携わる多くの分野の方々と連携して行くことの出来る山梨県芸術文化協会や行政であってほしいと願っております。



聴覚に障害のある子供たちの世界を広げた舞台芸術

山梨県立ろう学校 辻 松子

バレエの歴史を語る「パ・ド・カトル」で幕が開くと、初めて触れる本物のバレエに子ども達の視線は釘付けになりました。聴覚に障害のある子ども達も私たちと同じように様々な音楽と出会い、楽しんでいました。彼ら彼女らは目を澄まして、頭と耳で音楽をきいているのです。しかし、それはLDやDVDを通してでは難しいため、それらを直に感じ取ることで出来る鑑賞（雅楽、能楽、弦楽四重奏など）をこれまでも設定してきました。今回、子ども達の音楽の世界をさらに広げたいと考え、総合芸術であるバレエの夢幻な世界へいざないました。

バレエには高校生までもが夢中になって参加し、バレエのマイムが手話表現と似ていることや世界共通の言語であることに驚きました。そして、「ドン・キホーテ」「ジゼル」「夢の花園」などのパリエーションやパ・ド・ドゥに魅せられました。ポアントで立つ足の強靭さ、艶めくような上半身の動きの「瀕死の白鳥」の舞に、微動だにしない小学生の目には、涙が光っていました。ダンサーの表現からチャイコフスキー音楽の奥底に潜む悲しさを感じてきくことができたのでしょう。また技や衣装、顔の表情からバレエの空気感を楽しんだ生徒もいました。余韻と共に幕を閉じようとしたその時、近くでダンサーのチュチュやトゥシューズを見ることができるようにと、子ども達一人ひとりにプレゼントが手渡されました。

公演後、小学生は歌と身体表現活動でバレエの動きを取り入れようとしていました。また、中学生は直に感じたバレエの息吹と、音楽と身体表現の融合による公演の魅力を作文（音楽鑑賞振興作文募集で優秀賞受賞）に綴りました。優れた舞台芸術に触れた感動が、さらに音楽を愛好する心を育てており、自分の目と耳で音楽を感じる楽しさを増やしています。





国民文化祭

テーマ「文化の風とあそぶ～みつめる・こえる・つなげる～」

第 28 回国民文化祭・やまなし 2013

開催期間：平成 25 年 1 月 12 日(土)～11 月 10 日(日)

国民文化祭の開催準備が進んでいます！

平成 25 年に山梨県で開催される国民文化祭に向け、平成 22 年度は、各分野の事業を主催する市町村や県芸術文化協会と協議を重ね、いつ、どこで、何を行うかなど具体的な内容を盛り込んだ実施計画大綱案の作成をするとともに、「マスコットキャラクター」「愛称・ロゴマーク」「広報基本計画」などを決定してきました。

平成 23 年度は、各市町村が実行委員会や事業別企画委員会を設置し、具体的に事業内容を検討していきます。県芸術文化協会の皆様には、引き続きご協力をお願いいたします。



第 28 回国民文化祭・やまなし 2013 の愛称「富士の国やまなし国文祭」のロゴマーク



マスコットキャラクター「カルチャくん」

「富士の国やまなし国文祭」をたくさんの人に知ってほしい！

「やまなし県民文化祭」のマスコットキャラクターの「カルチャくん」が国文祭仕様になりました。装いも新たに国民文化祭に訪れる皆さんを、両手を広げてお迎えます。

今後は、楽器、絵筆、茶器を持つなど事業に応じてアレンジした「カルチャくん」を作っていく予定です。



国文祭 PR イベントを開催しました

多くの県民に国民文化祭を知っていただくために、平成 22 年度は、45 団体延べ 900 人あまりのボランティアアーティストによる音楽やダンスの PR イベントやカウントダウンキャンペーンを、県内 19 カ所で実施しました。



「富士の国やまなし国文祭」のイメージソングを募集します

「富士の国やまなし国文祭」を全国にアピールしたり、大会イベントで活用するため、明るく親しみやすいイメージソングを募集します。募集期間は 5 月 1 日～6 月 30 日です。詳しくは、ホームページをご覧ください。

山梨 国文祭

検索

「第 26 回国民文化祭・京都 2011」が開催されます

本年は、京都府にて 10 月 29 日(土)～11 月 6 日(日)の会期で「第 26 回国民文化祭・京都 2011 (愛称:文化の感動 京都国文祭)」が開催され、当協会からも多くの部門から参加を予定しております。平成 25 年の本県での国民文化祭の開催に向けて、会員の皆様の積極的な視察をお願いいたします。

総会・会員研修会のお知らせ

日時 4月26日(火) 総会：午後1時30分～

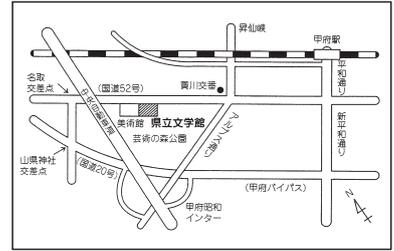
会員研修会：午後2時～

場所 山梨県立文学館・研修室

甲府市貢川1-5-35 TEL 055-235-8080

総会概要

- ・平成22年度 事業報告及び決算について
- ・平成23年度 事業計画及び予算案について



会員研修会

今回の会員研修会は平成25年に本県において開催される「第28回国民文化祭・やまなし2013」について国民文化祭課より現在の進捗状況などを中心に、山梨県実行委員会や企画委員会での審議の内容、実施計画大綱の構成や策定に向けた進捗の状況など、具体的な内容をお話していただきます。県民が主体となって盛り上げる国民文化祭とするため、当協会員のみならず、広く一般の方々の参加をお待ちしております。

いんぷおめーしょん

会員活動紹介

写真部門

■第30回女性カメラグループ「虹の会」写真展

日時：平成23年5月24日(火)～29日(日)

会場：山梨県立美術館ギャラリーC

■第10回山梨県写真団体連絡協議会合同展

日時：平成23年6月21日(火)～26日(日)

会場：山梨県立美術館ギャラリーA

■第34回フォトクラブリターン写真展

日時：平成23年7月18日(火)～24日(日)

会期中19日は休館日

会場：山梨県立美術館ギャラリーB

■山梨フォトクラブ第28回写真展

日時：平成23年8月28日(日)～9月3日(土)

会期中8月29日は休館日

会場：山梨県立美術館ギャラリーB

吟剣詩舞部門

山梨県吟剣詩舞道総連盟

■第61回全国吟剣詩舞コンクール山梨県大会

日時：平成23年5月1日(日) 10時～16時30分

会場：山梨県立文学館講堂

内容：合吟・剣舞・詩舞・独吟(剣詩舞と独吟は、幼少青年・一般)

山梨県詩吟剣詩舞総連盟

■詩吟剣詩舞コンクール山梨県大会

日時：平成23年4月9日(土) 10時～

場所：山梨県立文学館講堂

山梨県吟剣詩舞同友会

■第1回吟剣詩舞発表大会

日時：平成23年10月9日(土) 開場12:30 開演13:00

場所：甲府市南部市民センター・ホール

音楽部門

■第38回山梨交響楽団定期演奏会

日時：平成23年6月26日(日) 17:00開場 18:00開演

場所：コラニー文化ホール 大ホール

指揮：クリスティアン・シュルツ

(ウィーン・モーツァルト・コレギウム音楽監督・首席指揮者)

曲目：メンデルスゾーン／交響曲第4番イ長調作品90「イタリア」、ドボルザーク／交響曲第9番ホ短調作品95「新世界より」

入場料：一般1,500円 高校生以下1,000円

華道部門

■第21回 山梨県華道協会展

会期：平成23年4月15日(金)～20日(水)

午前10時～午後7時

開催形式：3次展(会員を3グループに分け出展)

場所：甲府岡島百貨店7階大催事場(同会場で、いけばな体験教室も実施)

参加団体：山梨県華道協会加盟19流派

出品者数：流派代表者19名・協会登録会員選抜264名

計283名

■平成23年度 山梨県華道協会定例総会

日時：平成23年4月17日(日) 午前10時

会場：甲府岡島ローヤル会館8階

美術部門

■第74回山梨美術協会展

日時：平成23年7月5日(火)～17日(日)

会期中11日休館日

会場：山梨県立美術館県民ギャラリーABC

民謡民舞部門

■山梨県舞踊研究会 第16回舞踊発表大会

日時：平成23年5月1日(日) 10:00開場 10:30開演

場所：コラニー文化ホール(小ホール)

邦楽部門

■山梨邦楽合奏団「響鳴」第4回定期演奏会

日時：平成23年4月23日(土) 13:30開場 14:00開演

場所：双葉ふれあい文化館

入場料：一般1,000円 学生500円

書道部門

■第7回山梨書作家展

日時：平成23年6月28日(火)～7月3日(日)

会場：山梨県立美術館県民ギャラリーAB